

「どう見える? 生きる跡 アート」

## 視・読とも充実の記録集

石田和男

### 書評

本書は、2015年に青森県立美術館で12日間に渡って開催された「アウトプット展」の作品を紹介、また、そこまでの過程をドキュメントしている。

その目的は、アールと数字が組み合わさり、まるで現代絵画のようである。作家の表現意欲があふれ出ている。

「アウト(跡)キ」では生活の中で自らは、生きる跡、遊びの広がるハエは、まるでIMAXデジタルシアターで見るくらいの迫力である。

「クラボレーション」ではその名の通り、みんなが共同で作った作品だ。それだけに大きい。横に長く、ウツプット展は9月2

「アイコン(アイコン)」は中

「どう見える? 生きる跡 アート」



「どう見える? 生きる跡 アート」 青森県 特別支援学校発 造形作品展の記録

形が見出される。粘土 学生たちによる作品。を丸めるとそこに作者 黒の地に何人もの人の世界がうまれる。ま 影。そしてあちこちにた、手にどろろを塗り、40の数字。これを見てそれを紙に塗っていく いると仲間、家族、カ と「どろろとしみ跡画」 ツプルを想起させられ ができる。作者の潜在 性が見え隠れしアール 性の再生のイメージ が浮かぶ。

また、これらの素晴 「アイコン(アイコン) らしい作品群が展示に 至るには、様々な視点 乗り物が描かれてい の交差と試行錯誤があ る。バスや車はドット ったことを、本書を通 (点)で埋め尽くされ して知ることができ ている。それだけでな る。視覚的だけでなく、全体が様々に着色 され、独特の世界が成 立。さながらパウル・ (弘前学院大学大学院 立。さながらパウル・ (弘前学院大学大学院

また、画面全体に ※アウトプット展実行 委員会編、岩井康頼監 修「どう見える? 生 きる跡 アート」 青森 県特別支援学校発 造 形作品展の記録」はB

5判、103頁、23 00円十税、弘前大学 出版会発行。第2回ア

日まで、県立美術館で

ウ40おめでとつ」は中

開催中

※この記事は陸奥新報社の提供です。

[問合せ先]弘前大学出版会

hupress@hirosaki-u.ac.jp

この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。

転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。